

2025年9月25日

令和7年度9月 学位記授与式 学長告辞

九州工業大学長 三谷康範

博士前期課程および博士後期課程を修了された皆さん、本日は誠にめでとうございます。皆さんが本日、学位記を手になされ、晴れて新たな一步を踏み出されることは、私たち九州工業大学の教職員一同にとっても大きな喜びです。心よりお祝い申し上げます。

また、今日この日まで、皆さんを支え、励まし、見守ってこられたご家族、ご友人、ホストファミリー、そして多くの関係者の皆様にも、深く感謝と敬意を表します。

さて、今、私たちを取り巻く技術革新のスピードは、日々加速の一途をたどっています。近年では特に、脳型コンピューティング、バイオエンジニアリング、カーボンニュートラル技術など、工学系の研究分野においても新たなブレイクスルーが次々と起こっています。中でも生成AIや自律型ロボット、次世代通信（ビヨンド5G）、宇宙利用、環境適合、ロボティクス、バイオメディカルといった本学が得意とする分野の技術は、社会全体の構造すら変えつつあります。

皆さんが研究に打ち込まれたこの数年間は、ちょうどこうした技術が実社会に浸透し始める重要な転換点でした。生成AIはもはや研究支援ツールにとどまらず、設計、開発、教育、創造など多岐にわたる分野でその力を発揮しています。論文執筆における言語サポート、実験計画の最適化支援、さらには倫理的課題の検討に至るまで、研究者に求められる役割も大きく変わってきました。その一方で、技術への過度な依存が危惧される場面も増えています。情報の真偽を見極め、技術の限界と可能性を正しく理解することが、これからの社会を支える研究者や技術者にとって極めて重要です。

私は今日ここにいる皆さんには、その素養が十分に備わっていると確信しています。九州工業大学で培われた探究心、論理的思考、倫理的判断力、そして何より、困難な課題に立ち向かう姿勢は、今後の社会において必ずや大きな力とな

るでしょう。

皆さんは、多様な国・地域から集い、日々の研究と生活を通して、文化や価値観の違いを超えて互いに理解し合う経験を重ねてきました。その中で築かれた友情と信頼は、学術的ネットワークを超えて、人生の財産となるはずです。今後それぞれの場で活躍される中でも、この絆をぜひ大切にしてください。

いま世界は、気候変動、エネルギー問題、地政学的リスク、そして感染症など、数多くの困難に直面しています。こうしたグローバルな課題を解決する鍵は、国境を越えた協働と、異なる立場を尊重しながら共通の未来を描く姿勢にあると私は信じています。工学の力は、その土台となる科学的思考と技術的革新を通じて、国際的分断を乗り越えた持続可能な社会の実現に大きく貢献します。

九州工業大学では現在、「多様性の創造」を重要な理念として掲げています。私たちは単に多様な人材を受け入れるだけでなく、その多様性を活かし、新たな価値を生み出す教育・研究環境の構築に努めています。ジェンダー、国籍、専門性の異なる人々が協働することで、既存の枠組みにとらわれない発想や、斬新な技術が生まれる可能性は飛躍的に高まります。皆さんには、その先駆者となっていただきたいと思います。

学位取得は一つの大きな節目ですが、学びはここで終わるものではありません。皆さんには、これからも知の最前線で、自ら問いを立て、答えを探し続ける姿勢を忘れずにいてほしいと願っています。そして、自分の専門性を活かしつつ、社会との接点を常に意識しながら、より良い未来を築く力となってください。

最後になりますが、皆さんが本学で得た多くの学びと出会いを糧に、これからも力強く歩まれ、人生を豊かに切り拓いていかれることを心から祈念します。そしてその歩みの中で、母校・九州工業大学を折に触れて思い出して繋がりを活用いただければ、私たちにとってこれほど嬉しいことはありません。重ねて、皆さんの門出を心よりお祝い申し上げ、学長告辞といたします。本日は誠におめでとうございます。